

小学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

社	会
---	---

東京都教職員研修センター

平成14年度 教育研究員名簿

分科会名	地区	学校名	氏名
中学年	中央	月島第二小学校	有谷 敏行
	港	南山小学校	◎寛田 貴之
	江東	砂町小学校	菅井 明子
	大田	女塚小学校	吉田 千恵子
	世田谷	代沢小学校	伊藤 修久
	豊島	池袋第一小学校	平松 貴子
	板橋	三園小学校	○佐野 実
	江戸川	第七葛西小学校	小柳 正浩
	八王子	第四小学校	山北 雅史
	町田	町田第三小学校	森下 純子
	福生	福生第六小学校	田澤 仁志
高学年	文京	本郷小学校	宮林 伸之
	品川	小山小学校	藤田 昌弘
	世田谷	砧小学校	高藤 浩
	世田谷	瀬田小学校	林 妙子
	杉並	富士見丘小学校	○阿部 秀嗣
	練馬	下石神井小学校	伊藤 雄一
	府中	本宿小学校	井手 菜穂子
	小金井	小金井第一小学校	猪股 知恵子
	東村山	秋津東小学校	福留 潮

◎ 全体世話人 ○分科会世話人

＜担当＞ 東京都教職員研修センター指導主事 時田 明子

目 次

I 全体研究主題について	
1 全体研究主題	1
2 全体研究主題設定の理由	1
II 研究の内容	
＜中学年分科会＞	
1 中学年分科会主題及び主題設定の理由	2
2 研究の内容 (1) 教材の構成の工夫	4
(2) 評価の工夫	5
3 実践事例 4年「六郷用水を開く」	8
＜高学年分科会＞	
1 高学年分科会主題及び主題設定の理由	13
2 研究の内容 (1) 「社会的事象の意味を考える力」のとらえ方	15
(2) 教材構成の工夫	15
(3) 評価の工夫	18
3 実践事例 (1) 5年「自動車をつくる工業」	20
(2) 6年「戦争から平和への歩みを見直そう」	22
III 研究のまとめ	24

要約

本部会では、まず学習指導要領の目標・内容を分析し、小単元の基礎・基本を具体化した。次に、基礎・基本の定着を図るための教材選定の視点を明確にし、教材の配列の順序、教材を構成していく手順（教材構成までの流れ）を図に表した。そして、この教材構成図をもとにして、基礎・基本を定着させるための指導計画を作成した。

また、児童の変容を適切な場面で見取るために、評価規準表及び評価計画表を小単位ごとに作成するとともに、座席表や、学習後の振り返りカードなどを活用して的確に児童の学習状況を把握し、指導と評価の一体化を図ることを目指した。

I 全体研究主題について

1 全体研究主題

社会科学習における基礎・基本の確実な定着を図る教材の構成と評価の工夫

2 全体研究主題設定の理由

社会科の学習で身に付けるべきことを明確にし、それらの事項を一人一人の児童に確実に定着させることが求められている。

昨年度、小学校社会部会では「基礎・基本の確実な定着を図るための教材の開発と構成」をテーマにして研究に取り組んでいる。基礎・基本を確実に定着させるためには、教材の配列を工夫して学習活動を組み立てるとともに、目標に到達したかどうかを適切に見取るための明確な規準を設け評価することが重要である。そこで今年度は、昨年度の成果の上に立って、教材の構成についての研究をさらに深めるとともに、評価を視野に入れ、指導と評価の一体化を図ることを目指し、上記の主題を設定した。なお、本研究主題でいう「教材」とは、学習において児童が活用する具体的な教材を指している。

Ⅱ 研究の内容

< 中学年分科会 >

< 中学年分科会研究主題 >

地域とかかわる子どもを育てる教材の構成と評価の工夫

1 中学年分科会主題設定の理由

(1) 中学年における基礎・基本をどうとらえるか

本分科会では、基礎・基本を決定するに際して『小学校学習指導要領』（以下「学習指導要領」とする。）の第3学年及び第4学年の目標と内容をよりどころとした。目標や内容の分析をすればいずれも「自分たちの住んでいる地域社会<市（区、町、村）や県（都、道、府）>の特色を理解すること」「地域社会の一員としての自覚や地域社会に対する誇りと愛情をもつこと」「資料活用能力や表現力及び社会的事象について考える力を育成すること」を重視している。

そこで、本分科会では、上記三つのキーワードを中学年の社会科学習の基礎・基本ととらえることにした。

(2) 「地域とかかわる子ども」とは

中学年の社会科では地域社会の事象を教材として取り上げ、地域の事象や人々とのかかわりを通して学んでいくことが大切である。しかし、児童の実態をみると、必ずしも地域の事象や人々と十分にかかわっているとは言えない。むしろ、その関係は希薄になっている様子も伺われる。そこで、中学年の社会科学習においては「地域とのかかわり」を学習の中核に位置付けることが必要であると考えた。

一方、「学習指導要領」においては、各学年の目標は「理解」「能力」「態度」の視点から構成されている。したがって、中学年で身に付けることが期待される上記の三つのキーワードで示される基礎・基本について考える際にも「理解」「能力」「態度」の視点から考えていく必要がある。

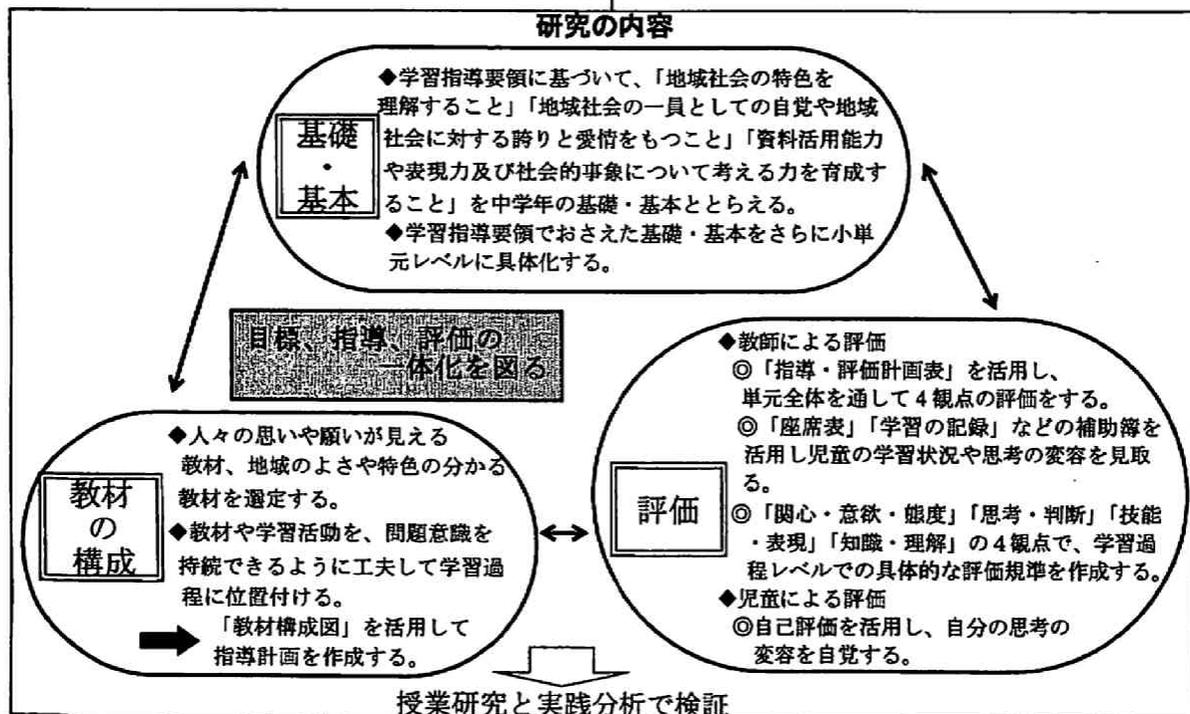
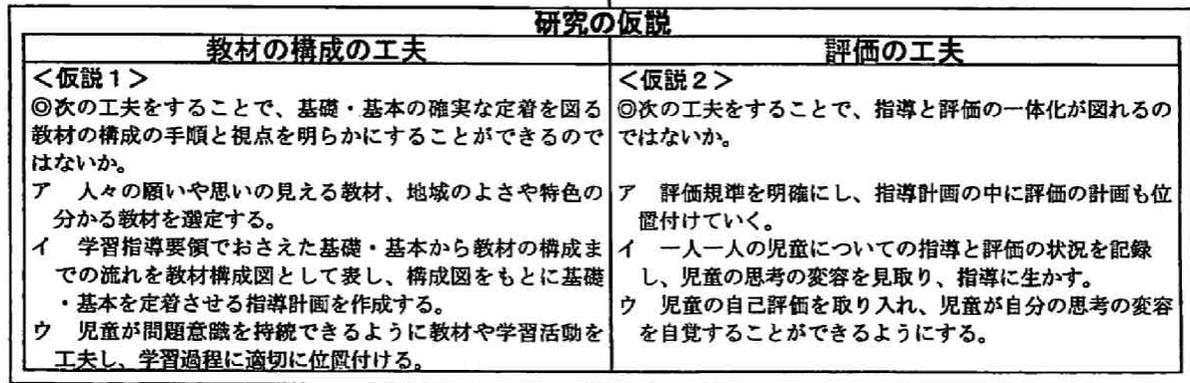
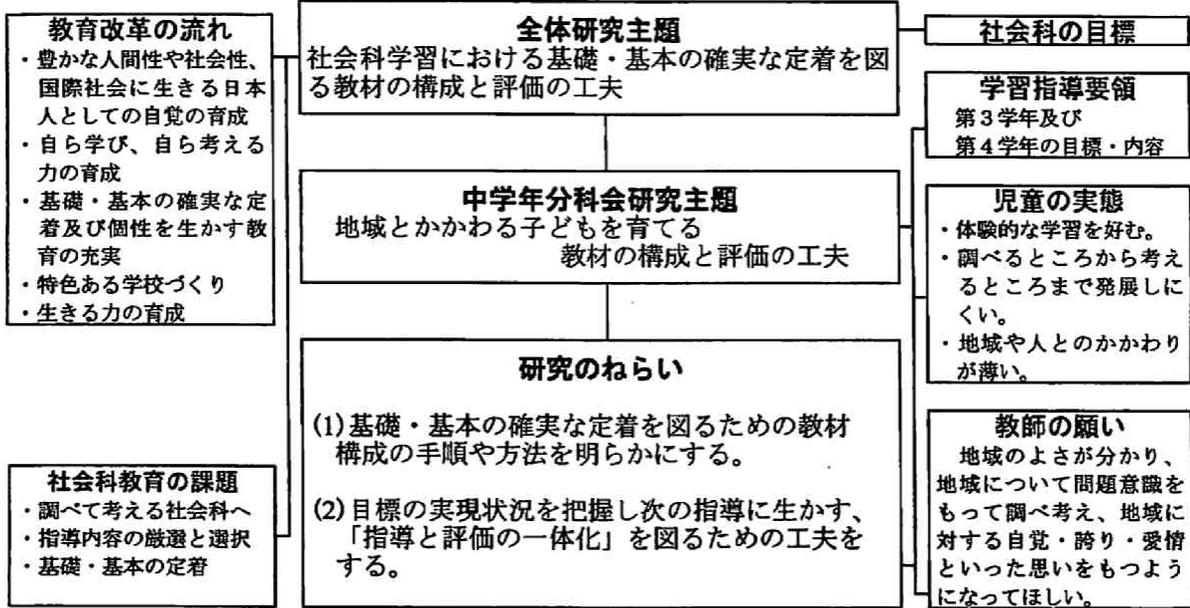
本分科会では、上記の三つのキーワードで示される基礎・基本を身に付けた児童像を「地域とかかわる子ども」ととらえた。すなわち、社会科の学習を通して地域のよさが分かり（理解）、地域について問題意識をもって調べ考え（能力）、地域に対して自覚・誇り・愛情といった思いをもつ（態度）ようになることが中学年における基礎・基本を身に付けた状態であると考えた。そして、これらを一体として身に付けた児童像を「地域とかかわる子ども」と表現することにした。

(3) なぜ「教材の構成」と「評価の工夫」なのか

限られた時間の中で基礎・基本の確実な定着を図るためには、適切に教材を構成し、学習活動を組み立てるための視点と手順を明確にする必要がある。また、児童の学習状況からこれらの教材や学習活動の有効性を確かめたり、基礎・基本の定着の状況を把握し次の指導に生かしたりするためには、評価の工夫が必要になる。

以上のことを踏まえ、本分科会では上記の研究主題を設定した。

中学年分科会 研究構想図



2 研究の内容

(1) <仮説1> 教材の構成の工夫

ア 教材の選定の視点

教材を選定する視点として、次の二点を考えた。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・人々の思いや願いの見える教材 | ・地域のよさや特色の分かる教材 |
|-----------------|-----------------|

社会の事象には必ず人がかかわっている。そのような人々の思いや願いの見える教材を取り上げることは、学習を単なる施設調べや資料調べに終わらせず、社会の事象にかかわる人々への共感的な理解を促したり親近感をもたせたりしながら地域への理解を深める上で重要であると考えた。

また、地域にかかわる多種多様な社会事象の中から地域のよさや特色を取り上げることは、地域に対して肯定的で前向きなイメージを児童にもたせるために有効であると考えた。

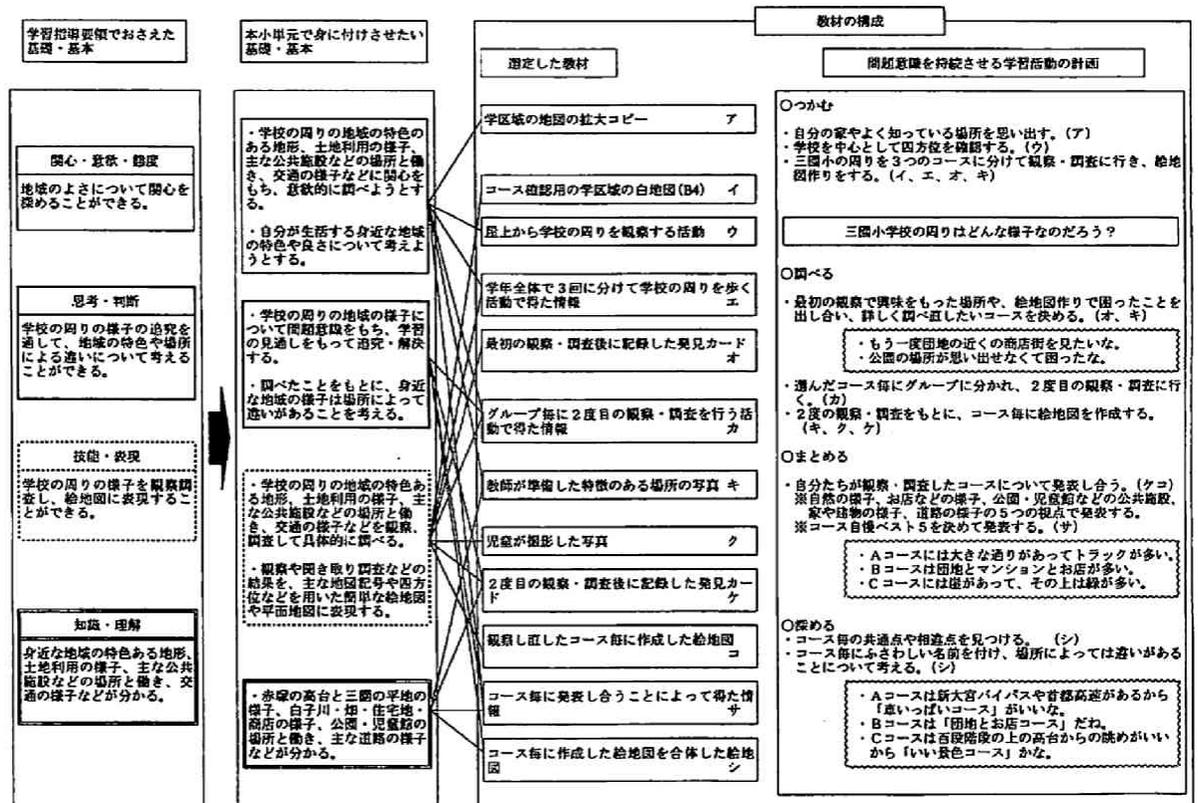
これらのことから、教材を選定する際に上記の視点が重要であると考えた。

イ 「教材構成図」を活用した指導計画の作成

学習指導要領でおさえた基礎・基本から教材の構成までの流れを一覧できるように下記のような図を作成した。

「教材構成図」の作成により、基礎・基本と学習活動のつながりが明確になり、基礎・基本を定着させるための指導計画を作成することができると考える。また、教材構成の手順を具体化することは、単元の指導計画を作成する際にも有効であると考えた。

<「教材構成図」例 3年「学校のまわりの様子」>



「教材構成図」は、次のような手順で作成した。

- ① 学習指導要領に基づいて基礎・基本をおさえる。
- ② 小単元のねらいや地域の実態等に即して、小単元で身に付けさせたい基礎・基本を明確にする。
- ③ 基礎・基本に即して考え得る教材や学習活動を挙げる。
- ④ ③の中から適切な教材を選定する。(教材の選定の視点について「イ」で後述)
- ⑤ 選定した教材をもとに、児童の問題意識が持続するように工夫して指導計画を作成する。(学習過程に位置付ける際の留意点について「ウ」で後述)

ウ 学習過程に教材を位置付ける際の留意点

選定した教材を学習過程に位置付ける際の留意点として、児童が問題意識を持続できるように配慮することが必要であると考えた。

そこで、単元全体を通して児童が問題意識を持続できるように、各学習過程に児童の関心を喚起したり活動を促したりするような教材や学習活動を工夫して位置付けるようにした。

(2) <仮説2> 評価の工夫

ア 「評価規準一覧表」「指導・評価計画表」の作成 ～評価規準を明確にする～

(ア) 「評価規準一覧表」

基礎・基本の定着の状況を把握する手だてとして、「評価規準一覧表」を作成し、学習過程に沿って評価規準を一覧できるようにした。

まず、小単元の基礎・基本に基づいて評価規準を作成する。次に、小単元の評価規準を学習過程レベルに具体化するとともに、いつ、どのような場面で、何を評価するかを明確にする。これを学習に生かすことができるように一つの表にまとめたものが「評価規準一覧表」である。(p.6 参照)

(イ) 「指導・評価計画表」

小単元を通して評価の時期・方法を分かりやすくするために「評価規準一覧表」の評価規準を指導計画に位置付けた「指導・評価計画表」を作成した。

作成に際しては、毎時間の主な学習内容、学習活動、観点ごとの評価規準、評価方法を表の中に書き入れる。その際、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点を、小単元を通して評価できるように位置付けた。(p.11 参照)

イ 教師による評価 ～「補助簿」を活用して児童の思考の変容を見取る～

ワークシートでは把握できない、毎時間の児童の反応・つぶやき・発言を記録するための表簿を作成し、「補助簿」とした。本分科会では「補助簿」として下記の二つを考えた。

(ア) 「座席表」

記入のための基本的な枠は座席表を用いることにした。授業中や授業の直後に短時間で記録するには、名前を探す時間が名簿よりも短くてすむと考えたからである。「座席表」には本時のねらいを記入しておき、教師が常にねらいを意識できるようにしておく。そして、授業中や授業終了直後に、その時間に印象に残った児童の反応・発言・つぶやきをメモしておく。記入する際、全員の記録をすることは無理があるので、特に印象に残った事項を記録す

るにとどめ、記入できなかった児童については、次時以降、意識して学習の様子を観察し、評価していくようにした。(p.7 参照)

<「評価規準一覧表」例 3年「学校のまわりの様子」>

観点→	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
小 単 元 レ ベ ル の 評 価 規 準	<p>関① 学校のまわりの地域の特色ある地形、土地利用の様子、おもな公共施設などの場所と働き、交通の様子などに関心をもち、意欲的に調べようとする。</p> <p>関② 自分が生活する身近な地域の特色やよさについて考えようとする。</p>	<p>思① 学校のまわりの地域の様子について問題意識をもち、学習の見通しをもって問題を追究・解決する。</p> <p>思② 調べたことをもとに、身近な地域の様子は場所によって違いがあることを考え、適切に判断する。</p>	<p>技① 学校のまわりの地域の特色ある地形、土地利用の様子、おもな公共施設などの場所と働き、交通の様子などを観察、調査して具体的に調べる。</p> <p>技② 観察や聞き取り調査などの結果を、主な地図記号や四方位を用いた簡単な絵地図や平面地図に表現する。</p>	<p>知① 身近な地域の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子などが分かる。</p>
学 か む 規 準 1 時 間 場 面	<p>関① 学校のまわりで見つけた疑問や調べたい場所について「発見カード」に書いたり発表したりすることができる。</p>	<p>思① 学校のまわりの様子について調べたいことを決め、学習の見通しをもつことができる。</p>	<p>技① 観察したことを観点にそってメモすることができる。</p>	
程 調 べ る ル 場 面	<p>関① 自分が調べたいコースを決め、意欲的に調べようとする。</p>	<p>思① 絵地図を完成させるために調べ直したいところを決め、学習の見通しをもつことができる。</p>	<p>技① 百段階段付近の土地の高低差、住宅や商店の場所、三園通り・新大宮バイパスの様子を具体的に調べることができる。</p>	<p>知① 自分が調べたコースが平らか坂道か、畑や区民農園の存在、住宅や商店の存在、公園や児童館の場所、三園通りと新大宮バイパスの場所などが分かる。</p>
で の 評 価 規 準 5 時 間 場 面	<p>関① 自分が調べたコースの絵地図を工夫して作ろうとする。</p>		<p>技② 三園小学校・氷川神社・三園郵便局・住宅・商店・畑等を、簡単な地図記号や四方位を用いた絵地図に表現することができる。</p>	<p>知① 自分が調べたコースが学校の場所と比べて高いか低いか、住宅や商店が多い中に畑や区民農園が散在している様子、公園や児童館の場所と様子、新大宮バイパスと三園通りの様子などが分かる。</p>
準 ま と め 規 準 1 時 間 場 面	<p>関① 作った絵地図について、進んで発表することができる。</p> <p>関② 三園小学校のまわりの地域の特色やよさについて考えようとする。</p>	<p>思② 調べたことや作った絵地図をもとに、三園小学校のまわりの様子は場所によっては違いがあることを考えることができる。</p>	<p>技② 作成した絵地図を分かりやすく発表することができる。</p>	<p>知① 赤塚の高台や学校周辺の平地の様子、住宅・商店・畑や区民農園の場所と様子、しらさぎ児童館の場所と働き、三園通りや新大宮バイパスの場所と特色、西高島平駅の場所等が分かる。</p>
深 め る 規 準 1 時 間 場 面		<p>思② それぞれのコースに合った名前を付け、場所によっては違いがあることを考えることができる。</p>		
3 時 間 場 面		<p>コースにぴったりの名前を付けて発表し合う場面。</p>		<p>(発表・ワークシート)</p>

<「座席表」例 4年「地形の特色を生かす ～山地にくらす人々～」>

座席表 小单元名「地域の特色を生かす～山地にくらす人々～」(2/2)

ねらい ○ 東京都の4つの特色ある地域を比べることを通して、東京都全体の地形の特色を知る

・子供の写真をみてわかること、考えたことはなに思ったことを書く。

A児	E児 ④ 台地の奥にみえている山は、山地の写真の山だろうか。	I児 ④ 低地と台地ではどちらが建物が多いか？	M児 ④ 台地には「人の手で作られたもの」が多く、山地は「自然のもの」が多い。	Q児 ④ 低地に山は見えませんが、台地には向かい山が見える。	U児
B児 ④ 山地では意外と人が多いかもしれない。	F児 ④ (山地) 人が少ないので自然が多そうを感じる。	J児 ④ 低地には一軒家が少なく、台地には多い。	N児	R児	V児
C児 ④ (山地) 土地が高く、なだらかな、たうしるい、全体的に高い。	G児	K児 ④ 東京はどいたけかと思いましたが山や一軒家も多い。	O児 ④ 川の色が緑色なのはよごれているためか。	S児	W児
D児 ④ (山地) 土地の高さが高い。	H児 ④ (参考) 低地と台地ではどちらが人口が多いか。	L児 ④ 台地は家が多く、低地は海が広がっている、山地は山で囲われている。	P児	T児	X児

(イ)「学習の記録」

児童の思考の変容を継続的に記録するための用紙を「学習の記録」として作成した。この用紙は児童の名簿と指導計画に位置付けた評価規準を組み合わせで作ったものである。授業終了後に「座席表」に残ったメモや、ワークシートの記述をもとに児童の発言や記述を継続的に記録していく。この「学習の記録」をもとに最終的な評価を行う。

「座席表」「学習の記録」などの「補助簿」の記録をもとにして一人一人の児童の学習の状況をできる限り多面的に把握し、指導に生かしていくようにする。

ウ 児童による評価 ～自己評価～

本分科会では、教師による評価とともに、児童による自己評価も重要であると考えた。児童自身が学習の内容や自分の思考の変容をきちんと振り返り、自分の学習状況を自覚すること

<「自己評価カード」例 4年「六郷用水を開く」>

(糸島芝居けき2)グループ

1 まとめ方で工夫したことは、何ですか？
農民たちをほめようと「工事がじゅんちゅうに進んでいるよ」というセリフを考えた。

2 六郷用水を作った小泉次大夫や農民たちの苦労や工夫・努力が伝わったと思いますか？ (◎)
できた◎ まあまあ○ ふつう□ もう少し△

ぼくのお母さんは、ずっと大田区に住んでいます。けれど、六郷用水のことをけきを見て初めて知ったと言っていたので、けきをやったかいかがありました。

ことで、基礎・基本の定着がより確実になるのではないかと考えたからである。

具体的には、ノートやワークシートに分かったことや疑問を書くという方法で行った。

また、発表会などを行った場合等には別途「自己評価カード」を作成して使用した。(左図参照)

3 実践事例 4年 「六郷用水を開く」

(1) 小單元における基礎・基本

基礎・基本 でおさえた 学習指導要領	態 度	能 力		理 解
	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・先人（六郷用水開削工事に携わった小泉次大夫や農民たち）の工夫・努力等に対する関心をもつ。 ・地域社会に対する誇りと愛情をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先人の働きから学習問題を見いだす。 ・学習問題を追究・解決していく過程を通して、地域の生活向上について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用水開削の先人の働きを、用水跡の見学・調査、地域の専門家などの話をもとに調べる。 ・分かったことを工夫して、年表などにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の生活向上に尽くした先人の願いや工夫・努力・苦心を理解する。 ・地域の宝として六郷用水を残したいという住民の願いが関係者の努力によって実現したことを知る。
基礎・基本 けさせたい 小單元で身に付	※ 本小單元における先人とは、大田区の六郷用水開削工事に携わった小泉次大夫や農民を示す。			

(2) 小單元の目標

六郷用水の開削工事に携わった先人の働きに関心をもち、工事の苦労や工夫、努力を意欲的に調べることを通して、日照りや洪水対策に貢献した先人たちの働きや願いを理解する。

(3) 研究主題とのかかわり

① 基礎・基本の確実な定着を図る教材の構成

ア 教材の構成を一覧の表にして示した。（P 9「教材構成図」参照。）

イ 問題意識をもって地域にかかわりながら学習に取り組むことができるように「つかむ」「調べる」段階に次のような具体的・体験的な学習活動ができる教材を取り入れた。

過程	つかむ	調べる ①	調べる ②
教材	大森・厳正寺の水止舞	六郷用水ウオーク・工事の疑似体験	専門家の話
教材のもつ意義	大田区の昔の水事情（水不足や大雨による洪水）や行事として約700年間も受け継がれていることを理解できる。	・「六郷用水物語」歴史散歩道の散策により、現在の様子を観察できる。 ・機械のない、人間の力が頼りの工事の大変さを体得できる。	地域の専門家から昔の用水の様子を聞くことにより、用水が昔の人々の努力によって守り続けられてきたことを理解できる。

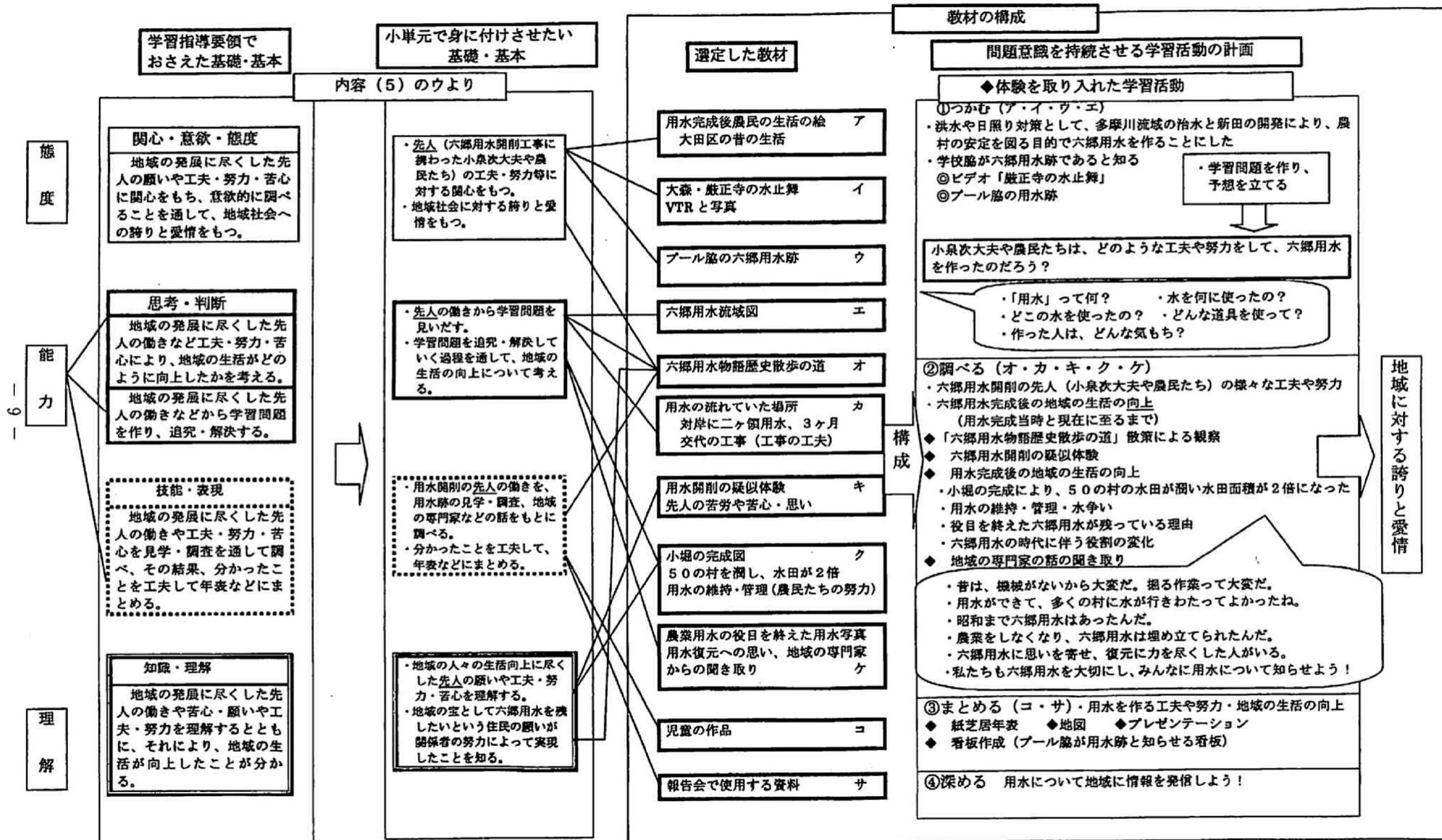
② 評価の工夫

全体研究主題の「基礎・基本の定着」を図るため、評価規準を明確にした単元の指導・評価計画表を作成し、目標・指導・評価の一体化を図った。また、評価の視点の共通理解を図り、教師による評価や児童による評価（自己評価・相互評価）を取り入れた。

指導・評価計画表	評価規準を明確にし、各学習過程において、評価の時期・方法を具体的に、指導計画の中に位置付けた。（P 11）
評価補助簿 学習の記録（思考変容）	評価規準を記入した補助簿を作成し、学習活動に沿って評価を記入したり、単元全体を通して児童の思考の変容を見取ったりするのに活用する。
児童による評価カード	自己評価や相互評価の観点を明確にする。（P 12「指導・評価計画」の“深める”段階で使用。）

(4) 4年 「六郷用水を開く」 教材構成図

※下記に記す先人とは、六郷用水開削工事に携わった小泉次大夫や農民たちを表す。



関心・意欲・態度
地域の発展に尽くした先人の願いや工夫・努力・苦心に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、地域社会への誇りと愛情をもつ。

思考・判断
地域の発展に尽くした先人の働きなど工夫・努力・苦心により、地域の生活がどのように向上したかを考える。
地域の発展に尽くした先人の働きなどから学習問題を作り、追究・解決する。

技能・表現
地域の発展に尽くした先人の働きや工夫・努力・苦心を見学・調査を通して調べ、その結果、分かったことを工夫して年表などにまとめる。

知識・理解
地域の発展に尽くした先人の働きや苦心・願いや工夫・努力を理解するとともに、それにより、地域の生活が向上したことが分かる。

・先人(六郷用水開削工事に携わった小泉次大夫や農民たち)の工夫・努力等に対する関心をもつ。
・地域社会に対する誇りと愛情をもつ。

・先人の働きから学習問題を見いだす。
・学習問題を追究・解決していく過程を通して、地域の生活の向上について考える。

・用水開削の先人の働きを、用水跡の見学・調査、地域の専門家などの話をもとに調べる。
・分かったことを工夫して、年表などにまとめる。

・地域の人々の生活向上に尽くした先人の願いや工夫・努力・苦心を理解する。
・地域の宝として六郷用水を残したいという住民の願いが関係者の努力によって実現したことを知る。

用水完成後農民の生活の絵
大田区の昔の生活 ア

大森・厳正寺の水止舞
VTRと写真 イ

プール脇の六郷用水跡 ウ

六郷用水流域図 エ

六郷用水物語歴史散歩の道 オ

用水の流れていた場所
対岸に二ヶ領用水、3ヶ月交代の工事(工事の工夫) カ

用水開削の疑似体験
先人の苦労や苦心・思い キ

小堀の完成図
50の村を潤し、水田が2倍
用水の維持・管理(農民たちの努力) ク

農業用水の役目を終えた用水写真
用水復元への思い、地域の専門家からの聞き取り ケ

児童の作品 コ

報告会で使用する資料 サ

教材の構成

問題意識を持続させる学習活動の計画

◆体験を取り入れた学習活動

①つかむ(ア・イ・ウ・エ)
・洪水や日照り対策として、多摩川流域の治水と新田の開発により、農村の安定を図る目的で六郷用水を作ることにした
・学校脇が六郷用水跡であると知る
◎ビデオ「厳正寺の水止舞」
◎プール脇の用水跡

・学習問題を作り、予想を立てる

小泉次大夫や農民たちは、どのような工夫や努力をして、六郷用水を作ったのだろうか?

「用水」って何? ・水を何に使ったの?
・どこの水を使ったの? ・どんな道具を使って?
・作った人は、どんな気持ち?

②調べる(オ・カ・キ・ク・ケ)
・六郷用水開削の先人(小泉次大夫や農民たち)の様々な工夫や努力
・六郷用水完成後の地域の生活の向上(用水完成当時と現在に至るまで)
◆「六郷用水物語歴史散歩の道」散策による観察
◆六郷用水開削の疑似体験
◆用水完成後の地域の生活の向上
・小堀の完成により、50の村の水田が潤い水田面積が2倍になった
・用水の維持・管理・水争い
・役目を終えた六郷用水が残っている理由
・六郷用水の時代に伴う役割の変化
◆地域の専門家の話の聞き取り

・昔は、機械がないから大変だ。掘る作業って大変だ。
・用水ができて、多くの村に水が行きわたってよかったね。
・昭和まで六郷用水はあったんだ。
・農業をしなくなり、六郷用水は埋め立てられたんだ。
・六郷用水に思いを寄せ、復元に力を尽くした人がいる。
・私たちが六郷用水を大切に、みんなに用水について知らせよう!

③まとめる(コ・サ)・用水を作る工夫や努力・地域の生活の向上
◆紙芝居年表 ◆地図 ◆プレゼンテーション
◆看板作成(プール脇が用水跡と知らせる看板)

④深める 用水について地域に情報を発信しよう!

(5) 4年 「六郷用水を開く」 評価規準一覧表

本単元の学習過程で実際に評価する際の具体的な評価規準は、次の通りである。

○囲み数字はP11(6)単元の指導・評価計画で「具体的評価規準」の数字と対応する。

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
小単元レベルの評価規準	①地域の発展に尽くした先人(六郷用水開削工事に携わった小泉次大夫や農民たち)の働きに対する関心。見学や資料を生かした意欲的な調査活動。 ②地域の発展に尽くした先人の苦勞や願いに対する関心の深まり、地域社会に対する誇りと愛情。	①地域の発展に尽くした先人の働きや工夫、努力について調べる学習問題づくり、具体的な追究・解決。 ②調査をもとに、地域の人々の願い、実現に尽力した先人の働きや苦心の考察。 ③先人の働きによる、地域の人々の生活の向上への影響についての考察。	①地域の発展に尽くした先人の願いや工夫、努力、苦心についての資料活用及び調査。 ②地域の人々の生活の向上などの調査にかかわる、博物館や資料館の見学、学芸員や指導員などからの具体的な聞き取り。 ③見学や資料を生かした分かりやすい表現。	①地域の発展に尽くした先人の願いや、実現させるための工夫、努力、苦心の理解。 ②先人の働きによる地域の人々の生活向上に対する理解。 ③先人の働きを残す理由の理解。
学習過程	つかむ3H 評価規準 場	関① 見学から用水や、それをつくった先人に関心を持ち、学習問題を作ろうとする。 思① 解決のためのめあてをもって、学習問題を作り、追究する計画を立てる。		知① 昔の大田区の水事情や農民の願いを知り、用水をつくった理由を理解する。
	場面	関① 思① 身近な地域に残る水路の見学で、気付いたことを紹介し合い、用水づくりについて、学習問題を作る場面。(発言・行動観察・見学メモ)		知① 農民たちの願いを受け継ぎ、今も続く厳正寺の水止舞を知る。
調べる	評価規準	関① 資料探しや課題解決に向けて聞き取りをするなど意欲的に活動する。 思① 解決のための予想を持ち、学習問題を追究する。 思② 調べや体験を通して先人の働きや苦心、地域をよくしようとした思いを考える。	技① 見学・資料などから、用水への先人の願いそれをつくるための苦心や工夫を調べる。	知① 用水を作った先人の思いや工夫・努力・苦心が分かる。
	場面	関① 思① 思② 技① 知① (用水見学の行動観察・質問内容・用水小堀流域図・ワークシート)用水を見学したり、資料や地図を調べたり、地域の人に質問するなどして、先人たちがどのような気持ちで、どのような苦心や工夫をしながら用水を作ったかを調べる場面。		
評価規準	① 評価規準 場	思③ 用水の完成と地域の人々の生活向上の関連について考える。	「調べる」における評価規準は用水開削工事に関するものと、用水完成後の生活向上の2点を区別するため、2段階に分けた。なお、調べる②については、評価規準は同様でも、評価する場面が異なるので左記のように表した。	知②③ 先人の働きにより、地域の人々の生活が向上したことが分かる。
	場面	思③ 小堀の完成と地域の人々の生活の変化について話し合う場面。(発言・学習カード・用水小堀流域図)		知② 小堀の完成と地域の人々の生活の変化について話し合う場面。
まとめ	② 評価規準 場	思③ 農業用水としての役目を終えた用水の現在の様子や用水復元の意図について調べて考える場面。(規準は上と同じ)		知③ 農業用水としての役目を終えた用水の現在の様子や復元の意図について理解する場面。
	場面	関② 学習事項や資料を活用し、意欲的に活動する。 思③ 単元の終末時に、4つの視点が評価されればよいという考えに基づき、この表を作成したため、空白も生じた。この考えの背景には、各時間の授業では、評価の視点をしぼり、見取っていくことを重視したことがある。	技② 調べたことをもとに、用水を引くまでの工夫・努力などを分かりやすい表現方法でまとめる。 技② 紙芝居年表・地図などにまとめる場面。 技③ 調べて分かったことを聞き手に分かりやすく伝えようとする。	知③ 現在は、役目を果たしていない用水を残す理由が分かる。 知③ まとめをしている場面。
深める	① 評価規準 場	関② 地域の一人としての自覚を持ち、愛情が育つ。	技③ 調べて分かったことを聞き手に分かりやすく伝えようとする。	
	場面	関② 地域に情報を発信する場面。	技③ 関②に同じ	

参考文献： 小学校社会「観点別学習状況の新評価基準表」北尾倫彦・桑原利夫編集 (図書文化)

※上記の先人とは、「六郷用水」開削工事に携わった小泉次大夫や農民たちを表す。

(6) 4年「六郷用水を開く」 指導・評価計画表 (14時間扱い)

○囲み数字は、P10(5)「評価規準一覧表」の数字と対応する。

学習過程	○主な学習内容と活動	※教材 ◆資料 ◇手立てや留意点	具体的評価規準(主題との関連)				
			関 心	思 考	技 能	知 識	評価方法 (評価用具)
つ か む	1 大田区の用水完成前後の水事情について考える。 ○用水ができる前の農民の願いが表れているお祭りのVTRを視聴し、話し合う。 日照りでや洪水に悩む 水の心配なしに米がつけたい	※用水完成前後の農民の生活 ◇用水の使用目的は、農業用水であることを押さえる。 ※大森・厳正寺「水止舞」 ◆大森「水止舞」の写真・VTR ◇昔の農民の願いと水止舞保存に尽力する人々の思いに触れる。 ※プール脇の六郷用水 ※六郷用水流域図 ◆大田区のパンフレット ◆学校周辺、用水跡の写真 ◇短冊カードを活用したKJ法により学習問題を明確にする	①				発言 行動観察 ワークシート ・大田区昔の水事情 発言 行動観察 ワークシート ・厳正寺の水止舞 ワークシート ・六郷用水って何? ワークシート ・六郷用水の不思議
	2 大田区の低地には、多摩川から引いた六郷用水があることを知り、地域の用水について調べる。 ○用水跡に表示を出す、一部を復元し、散歩道として整備する等の大田区の取り組みを知る。 学校脇も用水跡であることを知り、見学に行く。 3 六郷用水を「いつ、誰が、どのようにして、どこに、作ったのか?」話し合う。 学習問題を作り、予想を立て、調べる方法について話し合う。 小泉次大夫や農民たちは、どのような工夫や苦勞をして六郷用水を作ったのでしょうか?		①	①		①	
調 べ る ①	4 見学の計画を立て、コースを着色する。 5 六郷用水跡を散策する。 6 六郷用水流域図で用水の流れていた場所を確かめ、向かいの二ヶ領用水と工事が3ヶ月交代で行われたわけを考える。(先人の工夫) 7 用水作りに使われていた道具や工事の方法について調べ、疑似体験をし、工事の苦勞や工夫を味わう。 ○体験終了後、工事に携わった人の気持ちを考える。 8 小堀の完成による水田面積の増加と用水完成後も用水を守ろうとした農民たちの努力を知る。	※六郷用水物語散歩道 ◇見学の視点の明確にする。持ち物の説明 ◆六郷用水散策マップ ◇安全面の確保上、保護者に協力を依頼する ◇記録のため、カメラを持たせる。 ※用水の流れた場所 ◆六郷用水流域図 ◇低地に入ると、用水が網の目のように広がることに気付かせる。 ※用水開削の疑似体験 ◇安全面の配慮をする ※小堀の完成図と農村の変化 ※用水の維持・管理 ◆六郷用水の工事記録	①	①	①	①	ワークシート ・六郷用水ウォークをして調べよう! 散策マップ 発言・行動観察 ワークシート ・六郷用水ウォークで分かったこと 発言 ワークシート ・六郷用水は、どこから? 発言・行動観察 ワークシート ・工事の手順や方法 ・工事の工夫や苦勞 ・用水の完成 ・用水を守る 行動観察
	9 農業用水としての役目を終えた用水が残っているわけを考え、復元計画を知り、自分なりの考えをもつ。(本時)	※農業用水としての役目を終えた用水 ◇大田区在住、本校、旧職員、○氏の話を取り入れる。	②	②	①	②	ワークシート ・現在の六郷用水
ま と め る	10 工事後の暮らしの変化・人々の気持ちなどを自分で選んだ方法でまとめる。 13 14 調べたことを、お互いに発表し合う。 ○相手のことを意識して分かりやすく発表し、お互いの考えを認め合う。	※児童の作品 ◇資料コーナーにVTRや絵本・写真を用意する。 ◆「六郷用水物語」(子ども用の読み物) ○氏 作	②	③	②	学習計画表 作品 発言 発表	

深める	(学習発表会で全校児童に発表) タイトル:「六郷用水物語」児童の案 発表方法 ①学習の軌跡ビデオ紹介 ②地図で見る六郷用水③紙芝居劇 ④写真で見る六郷用水⑤学校プール脇が用水跡と看板を作成し、説明。	※報告会・情報発信 ◇発表の視点を示す。 ・先人の工夫や苦勞・努力・願い ・地域の生活が、どのように向上したか?	②	②	行動観察 相互評価カード 自己評価カード
					1. まとめ方で工夫したことは何ですか? 2. 開削工事の苦勞や工夫・努力が聞き手に伝わったと思いますか?

※印は、教材構成図作成で選定した教材を表し、それ以外の資料は◆印として、区別した。

(7) 考察

① 教材の構成

「つかむ」「調べる」「深める」の各学習過程において、人の生き方・考え方にふれる教材や地域にかかわる体験的な学習活動を取り入れることにより、約400年前に作られた「六郷用水」という歴史的な教材を児童に身近なものとしてとらえさせ、工事の苦勞や工夫を感じさせるのに有効であった。

【体験後の児童の感想】

人々の 思いを くみ取る	ア 「六郷用水物語」歴史散歩道を歩いた体験	生きる 方を 考える
	イ 学校の花壇にくわ等を使って「女塚用水」を開削した経験	

・看板に「女塚」というのがあり、「村の人みんなて工事をやるほど大変だったんだ。」と、思った。(N児)

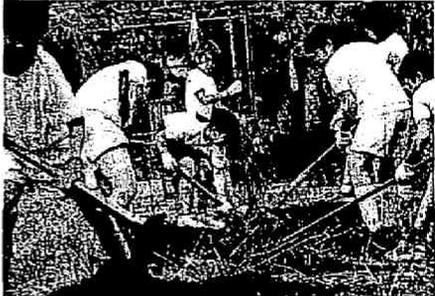
・初めて六郷用水を歩いてみた。口で言うのは、簡単だけれど、歩いてみると、結構疲れた。(T児)

イ 学校の花壇にくわ等を使って「女塚用水」を開削した経験 <A 花壇に「女塚用水」を開削>

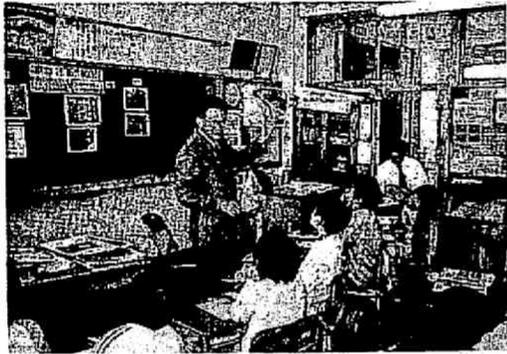
・掘ってみたら疲れた。昔の人は、約30km掘ったから、もっと疲れただろうなあ。(Y児)

・用水が完成して、水が流れたとき、とっても嬉しかった。そして、「やったかいが、あったな。」と、思った。(F児)

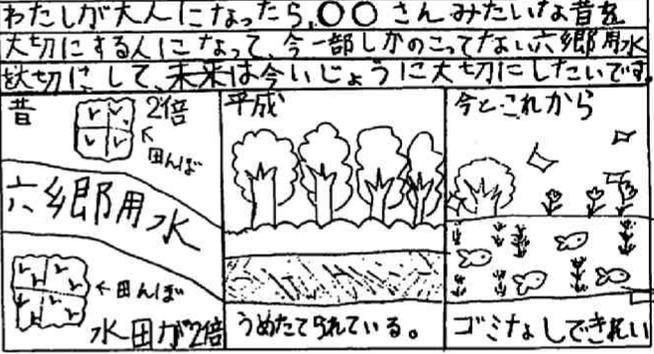
ウ 地域の専門家からの聞き取り
復元計画に協力した人の話を聞く。児童はCのように自分なりに地域への思いをもつことができた。



<B 地域の専門家からの聞き取り>



<C 地域に対するS児の思い>



② 評価の工夫

- 単元の指導・評価計画表の作成により、毎時間ごとに評価の視点をもつことができ、本小単元全体を通して、「態度」「能力」「理解」の基礎・基本の評価を実施することができた。
- 座席表や「学習の記録」の記述は、支援や助言をしたり、児童の思考の変容を見取ったりする上で有効であった。

＜高学年分科会＞

＜高学年分科会研究主題＞

社会的事象の意味について考える力を育てる教材の構成と評価の工夫

1 高学年分科会主題設定の理由

(1) 社会科学習における児童の様子

私たちの社会科学習の実践をふりかえってみると、さまざまな問題点が授業の中にあることに気付く。例えば、児童の主体的な学習を目指して課題別グループで調べ学習をさせているとき、教師はノートに熱心に記述している姿に安心する。しかし、記述を見ると本に書いてあることを写し取っているだけで調べた事実をもとに自分の考えを組み立てることができない。また、インターネットを使った調べ学習では、意欲的に取り組むけれど、多くの情報を取捨選択できずに、学習のねらいが達成できないこともある。

高学年の社会科学習では、学習の対象が地域や身の回りの事象から空間的にも時間的にも広がりを見せてくる。そのために、学習方法も直接、観察や見学をすることから、文章や絵、図等の資料を介しての調べる学習に比重が移ってくる。したがって、高学年になるほど、上記のような児童の様子が顕著となり、調べたことを常に自分たちの生活に結び付けて考える意識が薄い傾向にある。

(2) 社会的事象の意味について考える力の必要性

社会科学習では、資料から「事実」を読み取ったり、資料を比較したりしながら、事実のつながりをとらえる「事実を認識する力」が大切である。さらに、それらの事実の背景にある意味をしっかりとらえ、児童のもつ経験や学級等での学び合いを通して社会的な見方、考え方を育てていくことが重要である。

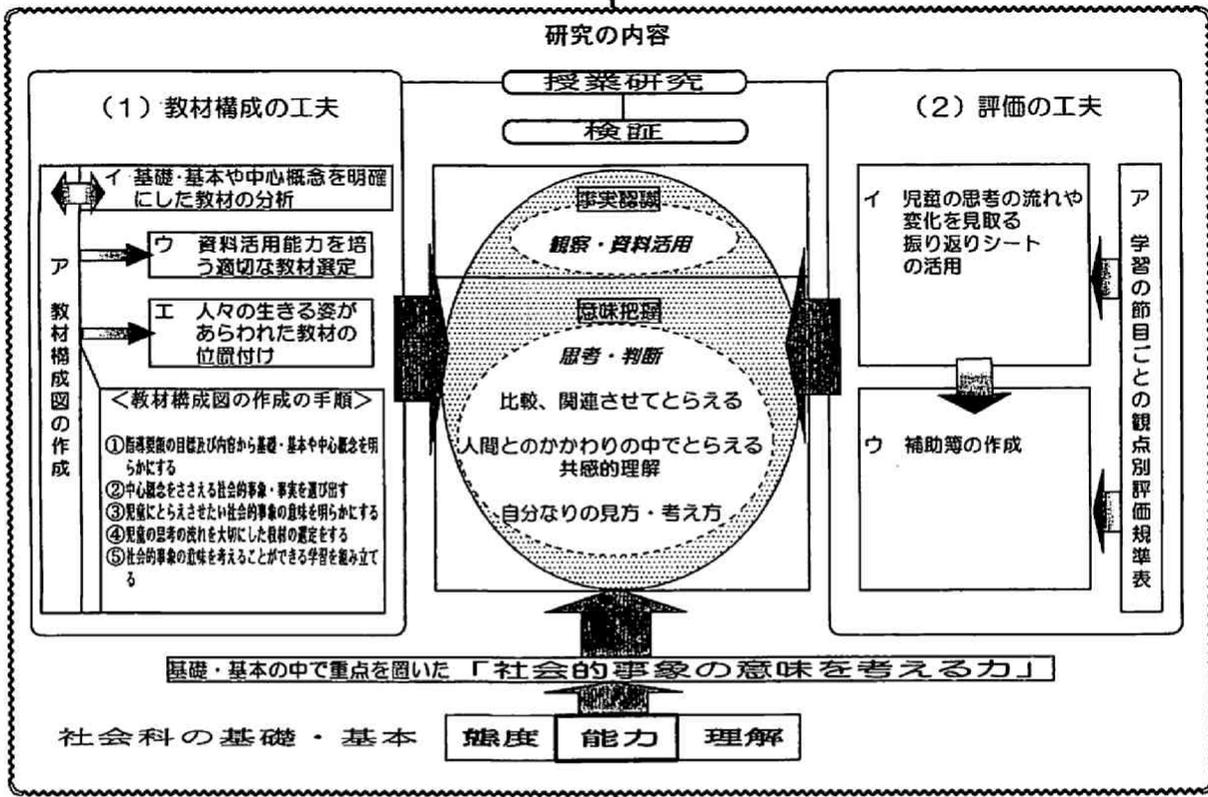
本分科会では、(1)で述べた児童の問題点は、まさに「事実を認識する力」(事実認識)と「意味を把握する力」(意味把握)が育っていないところに起因しているのだと考えた。したがって、児童が、単元の学習の中で「事実認識」と「意味把握」をする経験を繰り返しながら、社会的事象の意味について考える力を身に付け、学習問題を解決していくことが大切であるととらえた。また、「社会的事象の意味について考える力」は、社会科で求められている基礎・基本の確実な定着を図るために大切な力であるととらえた。

本分科会では、「社会的事象の意味を考える力」の育成を図るために、「教材の構成」と「評価の工夫」に視点をあて、児童に学習内容を確実に定着させるための教材構成の工夫及び授業者の指導目標と一人一人の児童の学習状況の把握の関連を図る評価の工夫について研究を進めることにした。

以上のことから、高学年分科会の研究主題を「社会的事象の意味について考える力を育てる教材の構成と評価の工夫」と設定した。

※ 研究のねらい、仮説は構想図に記載。

高学年分科会 研究構想図



育てたい児童像 社会的な事象に関心を持ち、その意味や働きを考え、より良く生きていこうとする子ども

2 研究の内容

(1) 「社会的事象の意味を考える力」のとらえ方

「社会的事象の意味について考える力」とは学習問題を解決する過程において事実を理解したり、事実と事実の差等を見分けたりする「事実認識」と、その事実のもっている意味をとらえる「意味把握」を繰り返し、スパイラル的に体験していく中で培われる力であると考えた。また、この力は小単元の基礎・基本や中心概念を獲得するために中核的な働きをする力であるととらえた。

例えば、「自動車を作る工業」の実践では、全工業生産額における自動車生産額の割合が大きい事実をグラフから読み取った児童は「なぜ自動車生産額はこんなに大きいのだろう」というような事実のもつ意味について疑問をもつ。児童は疑問の解決のために販売店へ出向き、販売に携わっている人に聞き取りをした結果、客の用途に合わせた車を用意していたり、オプションによって細かい要望にこたえたりしているという事実をつかむ。そして、車がたくさん売れるから、生産額が多かったんだ、という意味を把握していく。さらに「車がたくさん売れる」という新たな事実から、「どうやってたくさん車の車を作るのか」という新たな意味を問う問いへと発展していく。

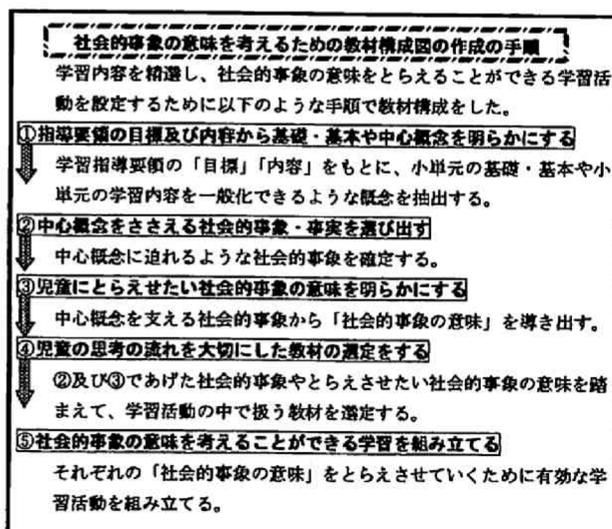
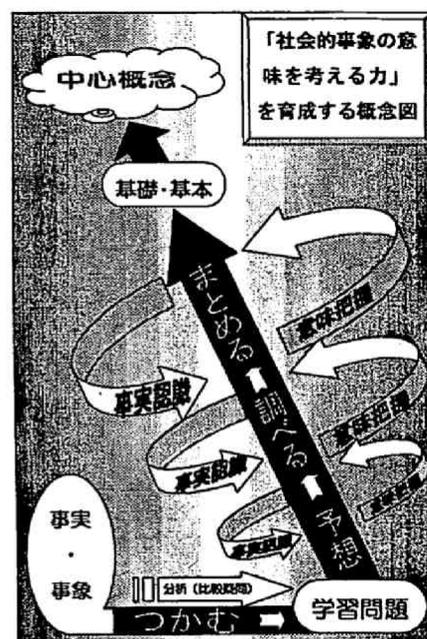
このような事実認識と意味把握を繰り返し体験する過程を通して疑問を問いに収斂させ、「自動車工場ではわたしたちの願いに応えるためにどのように車を作っているのだろう」という学習問題を設定する。さらにその学習問題を追究する中で中心概念を獲得していく。このような一連の流れの中で培われる力を本分科会では「社会的事象の意味について考える力」ととらえた。

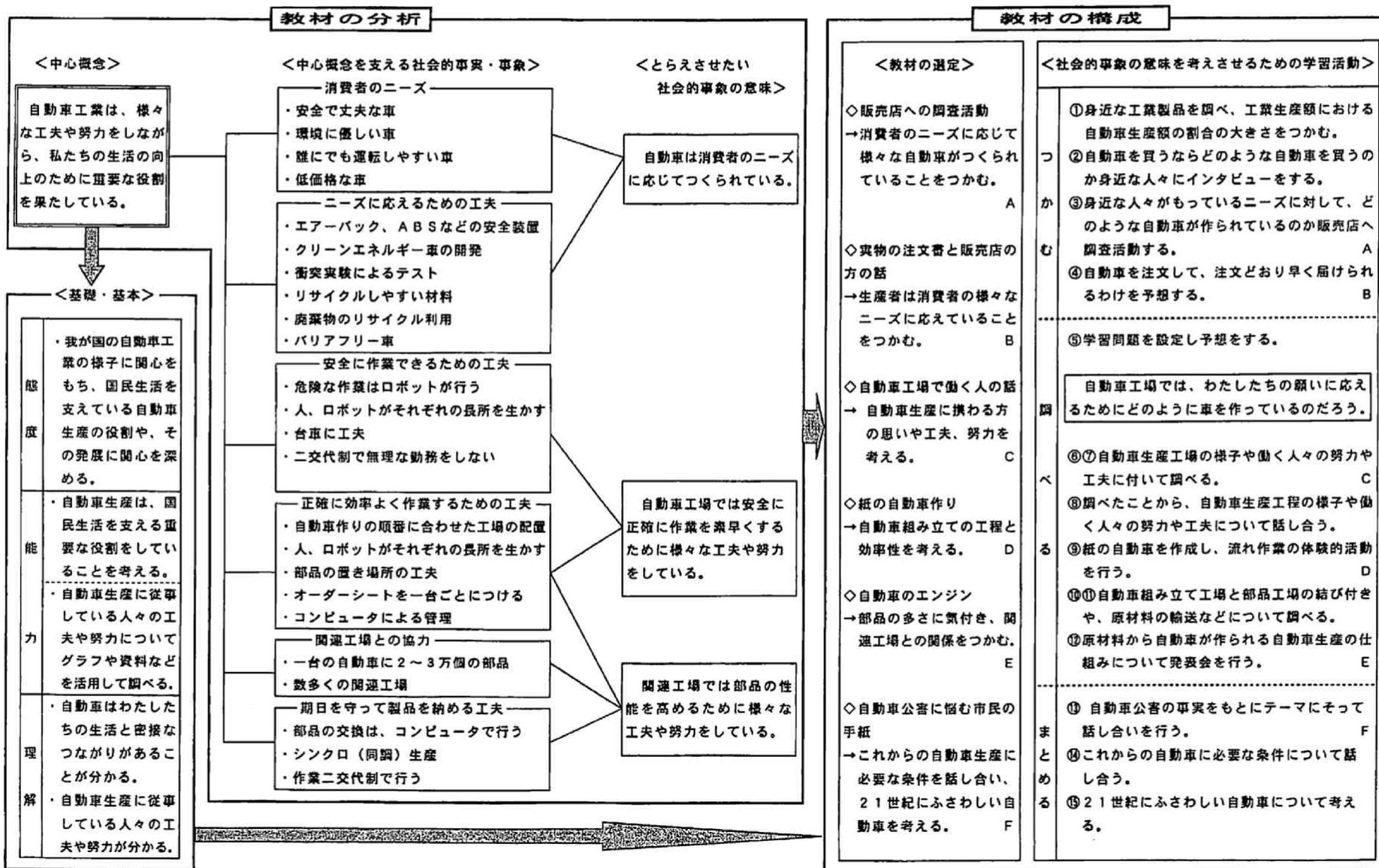
(2) 教材構成の工夫

ア 「社会的事象の意味を考える力」を育成する教材構成図の作成

児童に社会的事象の意味をつかませ、中心概念を獲得させるためには、適切な教材を選定し、その構成を考えた上で、学習活動を組み立てていくことが大切である。

適切な教材を選定するためには、中心概念の獲得に必要な社会的事象を精選し、児童にとらえさせたい社会的事象を明確にしておく必要がある。このように社会的事象を基に教材を選定し、指導計画に位置付けることによって、社会的事象の意味をとらえていくことができると思った。



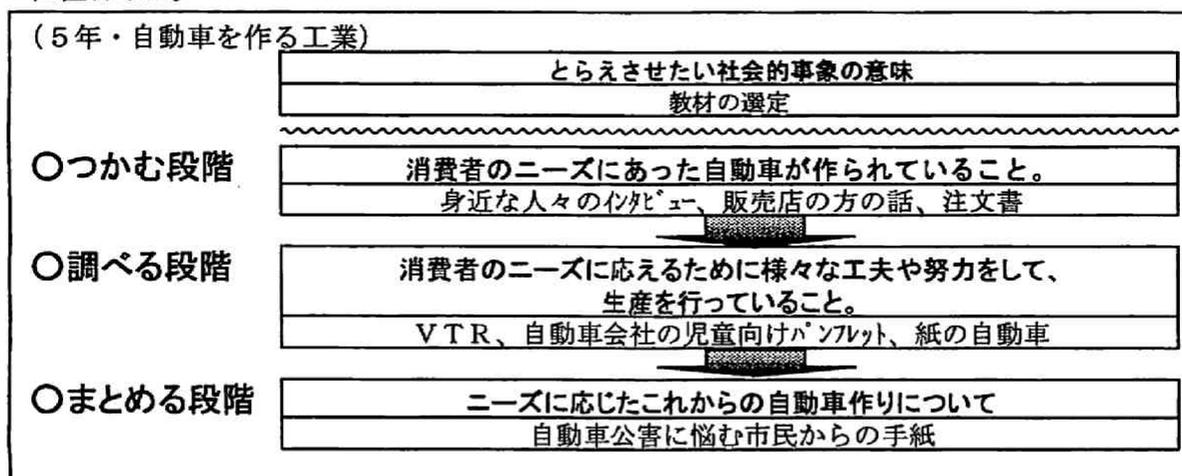


イ 基礎・基本や中心概念を明確にした教材の分析をする

学習指導要領「目標」及び「内容」から、単元の基礎・基本や中心概念を抽出し、それに基づいた教材分析をする。その際、中心概念を支える社会的事実・事象から児童にとらえさせたい社会的事象の意味を明確にする。この一連の分析を実施することにより、教材の意図や学習活動のねらいを常に意識することができ、基礎・基本を確実に身に付けることができるようになる考えた。

ウ 資料活用能力を培う適切な教材選定

資料活用能力には情報の収集、選定、加工等が含まれる。しかし、学習問題をつかむ段階からどの児童もねらいに即した情報収集ができるわけではない。これらの力を身に付けさせるために本分科会では、以下のように学習過程に応じて具体から抽象へと段階的な教材の選定を行い、資料活用能力を培うことができるようにした。適切な教材を選定することにより、どの児童も事実認識を確実にし、学習内容を着実に身に付けることができると考えたからである。例えば、5年の「自動車を作る工業」の学習では、つかむ段階ではより直接的で、具体的な教材、調べる段階やまとめる段階にいくにしたがってより間接的で抽象的な教材を位置付けた。



エ 人々の生きる姿があらわれた教材を学習に位置付ける

本分科会では社会的事象の「意味把握」をするためには、人とのかかわりを通して共感的な理解をすることが大切であると考えた。したがって単元の学習計画には可能な限り、ゲストティーチャーやビデオなど、人々の生きる姿が表れた教材を位置付けた。



自動車販売店の方が説明をしているところ

第5学年の「これからの食料生産」では、輸入食品が多い地域のスーパーマーケットの方と学校給食にも食材として使われている野菜を作っている地元の農家の方の二人にビデオに登場していただいた。「自動車を作る工業」では、地域の自動車販売店の方に児童が作った自動車の注文書をもとに販売の工夫を説明していただいた。

(3) 評価の工夫

ア 内容のまとめりごとの評価規準表の作成

一人一人の児童の目標の実現状況をできるだけ客観的に判断し、具体的に評価するために、単元の内容のまとめりごとに、4観点の評価規準と評価方法を考えた。

また、高学年分科会のねらいである「社会的事象の意味を考える力」の育成を図るために、能力目標である「思考・判断」を重点化し、「何を」「どのように」考えるのかという視点を具体的に提示することにした。

(例) 6年『戦争から平和へのあゆみを見直そう』 学習の節目ごとの観点別評価規準(思考・判断)
⑦戦後の人々の暮らしについて、戦後間もない焼け野原の写真と現在の写真を比較させながら、日本が復興していく様子について考えることができる。→第⑦時における評価規準
・十分な食料がなかったり、バラックに住んだりするなど、 厳しい生活の中で日本は復興していった。→評価の対象とする児童の反応例

イ 児童の思考の流れを見取る振り返りシートの活用

内容のまとめりごとに、児童に学習を振り返らせ、「わかったこと」や「考えたこと」を色別の付箋紙に書かせた。それらを各自の学習の履歴として残していけるように「振り返りシート」を作り、活用した。

活用の目的は、児童一人一人の思考の流れやその変化を教師が見取り、個に応じた支援をすることである。また、児童自身が分かったことを明確にし、自分の思考の流れや変化に気付くことである。このような振り返りの機会をもつことは、児童が「社会的事象の意味を考える力」を身に付けるために大切であると考えた。

(例) 6年『戦争から平和へのあゆみを見直そう』 N児の振り返りシートの見取りから一部抜粋			
学習内容	わかったこと(ピンク)	考えたこと(ブルー)	その人の立場になって考えたこと(イエロー)
日本が戦争を始めるきっかけ	ひどい不景気だったので、相手の国に進出し資源を手に入れようとした	その国の人と協力できなかったのかな	当時の人々は、とても苦しい生活をしていただろう。
戦争がどうやって広がっていったのか	日本はたくさんの国を手に入れようとしてかなわないような相手とも戦った	なんでそんなむだな事をしたのかな	戦争を始めた人たちは、戦争に勝つ見込みがあると考えていたのかな。

ウ 補助簿の作成

観点別評価規準表で記した評価内容を指導に生かすために評価補助簿を作成した。

授業での児童一人一人の発言や行動をメモとして残しておき、学習後に補助簿に転記することにした。

(例) 6年『戦争から平和へのあゆみを見直そう』の補助簿から一部抜粋												
時	1, 2, 3時間目			4, 5時間目				6時間目				
学習内容	戦争のきっかけや当時の状況を話し合い、関心をもつ。			沖縄戦・原爆が投下された広島・長崎の人々の状況を知る。				戦争が長引き、人々の暮らしが苦しくなってきた様子を話し合う。				
観点	関	思	技	知	関	思	技	知	関	思	技	知
児童1	関 A 写真を様々な角度から読み取る。			思 A 当時の被害にあった人々の立場を考えた。				知 A 戦争にかかわる資料をよく読む。				
児童2	思 B 「なぜ、戦争をするのか」という問いをもった。							技 A 熱心に当時の暮らしについて質問をしていた。				

学習活動	評価規準		社会的思考・判断 (・児童の反応例)	観察・資料活用 の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的思考・判断 (・児童の反応例)	観察・資料活用 の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解	
戦争 の 実 況	①焼け跡のまちを行く写真から、当時の状況を読み取る。 ②日本が戦争を始めるきっかけについて話し合う。	①戦争当時や昭和初期の写真やVTRをもとに、原因・経過や当時の人々の生活について関心をもつ。 【児童の発言より評価】 【ワークシートより評価】	①戦争と当時の日本国内の様子を関連させて考えることができる。 ・日本が戦争を始めた理由は、国内の不景気が原因ではないのか。 【ワークシートより評価】	①焼け跡を歩く子どもの写真から当時の状況を読み取ることができる。 【児童の発言より評価】	②日本が戦争を始めたきっかけについて、理解することができる。 【振り返りシートより評価】
	③中国との戦争がアジア各地に拡大していった様子をつかむ。 ④⑤神風、原爆が投下された広島、長崎の人々がどのような被害を受けたのかを調べる。 ⑥戦争が長引く中、人々の生活が苦しくなったことをつかむ。	<p><思考・判断を重点化した観点別評価規準表の作成> 児童のこぼれ、思考の様子を判断できるように提示した。</p> <p>この単元では、人々の暮らしに視点を置き、学習問題を発見し、解決することを目的とした。また、人々の暮らしをとらえていく中で、日本が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを考えることに視点をあてた。</p>	<p>③④⑤国内外での被害と人々の生活を関連付け、戦争の悲惨さや平和の意義について考えることができる。 ・戦場が拡大したことにより、多くの国の人々が戦争の犠牲になってしまった。 【振り返りカードより評価】 【ワークシートより評価】</p> <p>⑥小金井の戦争にかかわる記録を調べることを通じて、当時の人々の様子について考えることができる。 ・当時の小金井でも、戦争の影響で苦しい生活をしてきた人がたくさんいた。 【児童の発言より評価】 【ワークシートより評価】</p>	③地図から、戦場が満州から中国全土、アジア各国から太平洋まで広がっていく様子を読み取ることができる。 【児童の発言より評価】	⑦第二次世界大戦中の厳しい生活（灯火管制、学童疎開）について理解することができる。 【ワークシートより評価】
戦争 の 後 の 実 況	⑦戦後、人々がどのような暮らしを立て直していたのかをつかむ。	⑦玉音放送テープや焼け野原の写真、ヤミ市の値段などの資料から、戦後の人々の暮らしの変化について関心をもつ。 【児童の発言より評価】 【ワークシートより評価】	⑦戦後間もない焼け野原の写真と現在の写真を比較させながら、日本が復興していく様子について考えることができる。 ・十分な食料がなかったり、バラックに住んだりするなど、厳しい生活の中で日本は復興していった。 【児童の発言より評価】 【ワークシートより評価】		
戦争 の 調 査	⑧戦争中の人々の暮らしについて予想し、戦争体験者に聞いてみたいことを出し合う。 ⑨戦争体験者に話を聞く。	⑧⑨第二次世界大戦について、学んだことをもとに戦争体験者にインタビューすることができる。 【児童の行動観察から評価】	⑧⑨戦争体験者へのインタビューの内容を考えることができる。 ・戦争を体験した人たちは、食べ物や住む所に苦労していたのだろう。 【児童の発言より評価】 【ワークシートより評価】	⑧⑨戦争体験者へインタビューをすることができる。 【児童の行動観察から評価】	
戦争 の 調 査 の 後 の 人 生	⑩戦後、日本の民主的な改革が進められていく様子を調べる。	⑩日本国憲法の制定や教育の制度の改革に関心をもち、日本が民主的な国家を築いていく様子について進んで調べている。 【児童の行動観察より評価】	⑩日本国憲法と大日本帝国憲法を比較し、日本が民主的な国家を築いていったことについて考えることができる。 ・戦争を放棄し、平和を重視した憲法が作られた。 ・男女が平等に勉強することができるようになった。 【ワークシートより評価】		
戦争 の 調 査 の 後 の 人 生	⑪電化製品の普及やオリンピックの開催を調べ、人々の暮らしの変化について考える。 ⑫日本が平和で豊かな暮らしを実現するためにできることを考える。	⑪日韓共催で行われたワールドカップや日本国内にある米軍基地の様子から、日本のアジアにおける立場について調べている。 【児童の発言より評価】	⑫戦後の様々な改革や世界の各国の中で果たしてきた役割について考えることができる。 ・東京オリンピックがアジアで初めて開催され、国民の生活は向上していった。 【ワークシートより評価】	⑫⑬新幹線の開通や東京オリンピックなど、戦後の日本を象徴する資料を集め、戦後の主な出来事を略年表にまとめる。 【ワークシートより評価】	⑭⑮戦後、日本が民主的な国家として出発し、国民生活を向上させたり、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたりしたことが分かる。 【振り返りシートより評価】
戦争 の 調 査 の 後 の 人 生	⑬⑭これまでの学習を振り返り、各自の調べた事作品にまとめ、お互いに紹介する。	⑬⑭これまでの学習を振り返り、調べたことや考えたことをもとに、友達に進んで伝えようとしている。 【児童の行動観察より評価】	⑬⑭現在の平和な暮らしが様々な歴史的事実の上に成り立っていることに気づき、これからの自分たちの役割について考えることができる。 ・日本は、世界の平和維持にもっと貢献すべきだ。 ・かつて悲惨な戦争があったことを伝えていきたい。 【ワークシートより評価】	⑬⑭戦後から現在に至るまでの歴史を踏まえて、日本がこれから国際社会で果たすべき役割について理解することができる。 【振り返りシートより評価】	

3 実践事例

実践事例〈1〉…5年

(1) 小単元名 自動車をつくる工業 全14時間

(2) 基礎・基本

評価の観点	態度		能力		理解
	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
学習活動の基礎	◎我が国の自動車工業の様子に関心をもち、国民生活を支えている自動車生産の役割や、その発展に関心を深める。	◎自動車生産は、国民生活を支える重要な役割をしていることを考える。	◎自動車生産に従事している人々の工夫や努力についてグラフや資料などを活用して調べる。	◎自動車はわたしたちの生活と密接なつながりがあることが分かる。 ◎自動車生産に従事している人々の工夫や努力が分かる。	
小単元の基礎基本	◎自分の生活と自動車とのかかわりについて関心をもち、進んで調べるができる。 ◎社会生活の中で、有効な自動車の使い方について考え、行動しようとする。	◎消費者のニーズに応えるための自動車生産について関心をもち、その追究を通して自動車生産とわたしたちの生活との関連について考える。 ◎これからの自動車のあり方や自動車のもつ有用性について考える。	◎消費者のニーズにこたえるために自動車生産に携わる人々が、様々な工夫や努力をしていることを見学、調査、資料の活用を通して具体的に調べ、分かりやすく表現することができる。	◎自動車は生活を豊かにし、社会生活に不可欠であることを理解する。 ◎消費者の生活が豊かになるように、自動車生産に携わる人々は様々な努力や工夫を行っていることを理解する。	

(3) 小単元の目標

- ・自動車工業の様子を見学、調査及び各種の資料を通して調べ、日本の自動車工業は、国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて考える。
- ・日本の自動車工業と国民生活との関連について理解し、日本の工業の発展に関心をもちようとする。

(4) 教材構成図… P16 参照

(5) 内容のまとめりごとの観点別評価規準表

学習活動	学習への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断（ <small>○種の別例</small> ）	技能・表現の技能・表現	知識・理解の知識・理解	
		○自動車工業の様子を意欲的に調べることを通して、国民生活を支える我が国の自動車工業の発展について関心を深める。	○我が国の自動車工業の様子から学習の問題を見いだして追究し、国民生活を支える我が国の自動車工業の意味を考える。	○我が国の自動車工業の様子を調査したり、地図や地球儀、統計などの基礎的資料を効果的に活用したりするとともに調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現する。	○我が国の自動車工業は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解する。
つかむ	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①身の回りにおける工業製品と自分たちの生活とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べることができる。 【ワークシートより評価】 【児童の発言より評価】	①身の回りにおける工業製品と自分たちの生活とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べることができる。 ・身の回りにはたくさんの工業製品がある。 ・様々な工業製品が生活に役立っている。 【ワークシートより評価】	①自動車生産額のグラフを読み取る。 【ワークシートより評価】	
	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		③④身近な人々の自動車生産に対するニーズを理解する。 【ワークシートより評価】
	④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		
調べる	⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	
まとめ	⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

(6) 学習指導計画と指導の実際（14時間）

過程	ねらい	主な学習活動・内容	児童の反応（ <small>□…おぼたこと ☆…おぼたことおぼたこと</small> ）	◎教材	☆評価【観点：方法】 ○支援
	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①身近にある工業製品を調べ、気付いたことを発表する。	□身の回りには工業製品がいっぱいだ。 ☆だから、車がいっぱい走っているんだ。	◎家電製品の写真と普及率のグラフ ◎工業生産額における自動車	☆身の回りにおける工業製品について意欲的に調べることができるか。 【関心・意欲・態度：ワークシートより評価】

つとのかかわ かりに気付 む。	○工業生産額における自動 車生産額のグラフを見て、 気付いたことを発表する。		生産額の割合グラフ	☆工業製品が生活に役立っているこ とに気付く。【知識・理解：観察】 ☆自動車生産額を読み取ることが できたか。 【技能・表現：ワークシート】
消費者のニ ーズについ てインタビ ューする。	②車を買うのならどのような 車を買うのか、身近な人々 へインタビューし、気付い たことを発表する。 ③消費者のニーズに対して どのような車が作られている のか、気付いたことを話 し合う。	□環境に優しい車や維持費の安い車を ほしいんだな。 ☆家族みんながゆったり乗れる車がほ しいんだな。 □お客さんの希望に合わせてオプショ ンをつけるみたいだ。	◎自動車の広告 ◎パンフレット ◎テレビコマーシャル	○ワークシートにまとめた成果の発 表をし合い情報の共有化を図る。 ☆身近な人へ意欲的にインタビュー することができたか。 【関心・意欲・態度：ワークシート】 ○販売店の調査活動などの、体験的 活動を設定する。 ☆身近な人々の自動車に対する、ニ ーズを理解することができたか。 【知識・理解：ワークシート】
自動車注 文書通りに 早く届くこ とを調べる。	④注文書を書く。 ○販売会社の方から注文し た自動車が届けられるまで の様子を調べる。 ⑤学習問題を設定し、予想 立てる。	□いろいろな注文をつけたから、普通 の車よりできるのに時間がかかる。 □注文されてから作るのにとっても早い。 ☆連絡するのにコンピュータを使っ ているのかな。	◎自動車注文書 ◎注文から納車までの流れ図	☆消費者のニーズに基づいて、注文 書を書くことができたか。 【思考・判断：ワークシート】 ☆注文して、届くまでの様子に関心 がもてたか。 【関心・意欲・態度：ワークシート・観察】
【学習問題】 自動車工場では、わたしたちの願いに応えるためにどのように車を作っているのだろう。				
消費者のニ ーズに応え るための 様々な工夫 や努力につ いて調べる。	⑥⑦自動車生産工場の様子 や、働く人々の努力や工夫 について調べる。 ⑧調べたことから自動車生 産工程の様子や働く人々の 努力や工夫について話し合 う。 ⑨紙の自動車を作成し、流 れ作業の体験的活動を行う。	□流れ作業で作っている。 ☆たくさんの部品が一つに集まって車 になると思った。 □次から次へと車が流れてきて働い ている人は大変そうだ。 ☆一人一人でするよりも、みんなで手 分けした方が早くできる。 ■自動車工場で働く人は、もっと大変 だろうな。	◎VTR、インターネット	○実際の自動車のエンジンを見て、 部品の多さに気付かせる。 ☆VTRやインターネット等を使っ て、自動車生産工場の様子を探る ことができたか。 【技能・表現：ワークシート】 ○紙の自動車づくりを通して自動車 組み立て工場の効率性について考え させるようにする。 ☆前時の学習を、自分たちの自動車 作りに生かされたか。 【思考・判断：活動】
自動車組立 工場と部品 工場の結び 付きや原材 料の輸送な どについて 調べる。	(複線化) ⑩⑪ A：部品の生産 B：部品の運送 C：原材料の入手 D：自動車の運搬 ⑫自動車生産の仕組みにつ いて発表会を行う。	□大きい部品や小さい部品を作ってい る工場がある。(A) □自動車工場へは部品工場からトラッ クで部品が運ばれている。(B) □部品の数もきちんと決められた通り に作って届けている。(C) □トラックの運転手は遅れないように 運ぶために、夜走ることが多い。(D)	◎VTR ◎自動車会社の工場と主な関 連工場 ◎部品の生産工程の図	☆自動車生産が様々な人々の工夫や 努力によって支えられていることを 理解できたか。 【知識・理解：ワークシート】 ☆自分が調べたことと関連付けて他 のグループの発表をとらえているか。 【思考・判断：観察・ワークシート】
学習成果を と踏まえ、こ れからの自 動車工業に ついて考え る。	⑬「自動車はいらないのでは ないか」のテーマで話し合 う。 これからの自動車の必要な 条件について話し合う。	☆空気を汚さず騒音の小さい車を大量 生産をすれば地球温暖化の進行のスピ ードをゆるめることができる。	◎自動車公害に悩む市民から の手紙	☆自動車のもつ利便性や問題点につ いて気付くことができたか。 【思考・判断：ワークシート、つぶやき】 ☆これからの自動車生産について考 えることができたか。 【思考・判断：ワークシート】

(7) 考察

<教材構成の工夫に関して>

- 教材構成図に分析から構成までの流れを図に表すことによって、社会的現象・事実、社会的現象の意味、教材、学習活動の関係性をとらえることができた。また、教材構成図を基にしてねらいに合った社会的現象を精選し、学習活動を組み立てることができた。
- 販売店の方に来ていただき、自動車の注文書を見ていただく時間を設定した。販売店の方に直接出会うことで常に消費者のニーズに応えるために様々な工夫や努力をしていることに気付く児童が数多くいた。

<評価の工夫に関して>

- 社会的現象の意味を考える力を育成するために「思考・判断」を重点化した内容のまとめりごとの観点別評価規準表を作成した。ここにある具体的な項目を視点として振り返りシートや補助簿を活用し、児童一人一人の「思考・判断」を評価することができ、学習の支援に役立てることができた。
- 振り返りシートを記入する際に、付箋紙の色を書く内容ごとに分けて書かせることにより、教師が内容のまとめりごとの児童の思考の状況や変化を見取ることができた。また、児童自身も自分の考えの変化を知ることができた。しかし、学習時間内における即時的な評価については課題が残り、補助簿への記入の仕方を更に工夫していく必要があると考える。

実践事例〈2〉…6年

(1) 小単元名 戦争から平和への歩みを見直そう 全14時間

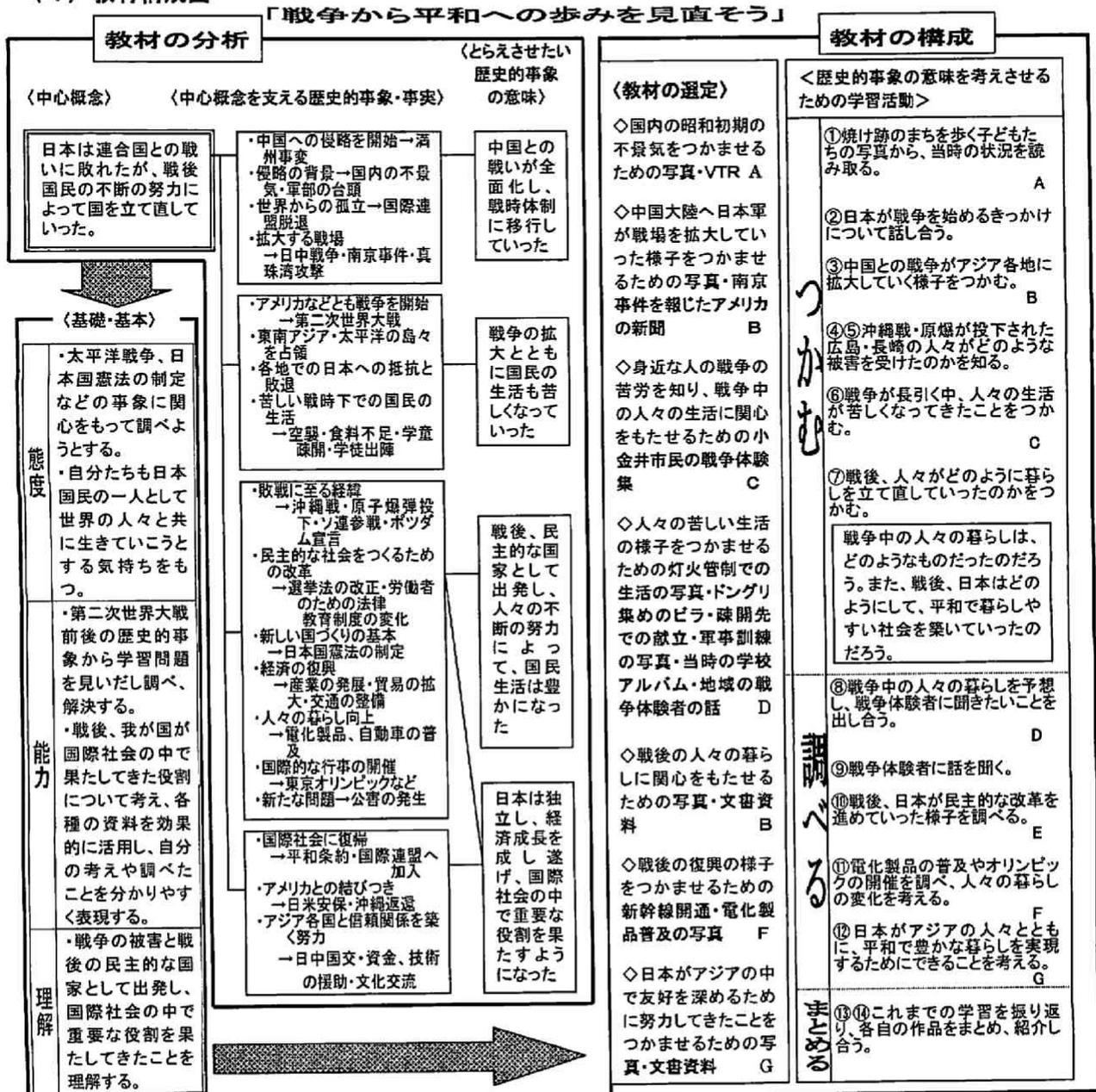
(2) 小単元の基礎・基本

評価の観点	能力			理解 知識・理解
	態度 関心・意欲	思考・判断	技能・表現	
学習指導 基礎 要領 基本	◎太平洋戦争、日本国憲法の制定などの事象に関心をもって調べようとする。 ◎自分たちも日本国民の一人として、世界の人々と共に生きていこうとする気持ちをもつ。	◎第二次世界大戦前後の歴史的事象から学習問題を見だし調べ、解決する。	◎戦後、我が国が国際社会の中で果たしてきた役割について考え、各種の資料を効果的に活用し、自分の考えや調べたことを分かりやすく表現する。	◎戦争の被害と戦後の民主的な国家として出発し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解する。
小単元の 基礎 基本	◎以下の事項に関心をもつ、追究しようとする。 ・戦争中の人々の暮らし ・戦後、日本が平和な社会を築いていったこと	◎人々の暮らしに視点をおいた学習問題を見だし、解決する。 ◎日本が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを考える。	◎年表や写真・VTR・文章資料、聞き取り調査などの基礎的資料を活用し、予想したことを調べ、調べたことを分かりやすくまとめる。	◎戦争中の人々の暮らしの大変さや、それを乗り越えて平和な社会を築いた人々の努力や工夫が分かる

(3) 小単元の目標

日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などの歴史的事象を具体的に調べることを通して、戦後、我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で、重要な役割を果たしてきたことを理解し、自分たちも日本国民の一人として、世界の国の人々と共に生きていこうとする気持ちをもつ。

(4) 教材構成図



(5) 内容のまとめりの観点別評価規準表…P19参照

(6) 学習指導計画と指導の実際 (14時間)

学習過程	ねらい	主な学習活動・内容	児童の反応例 (口わかった事やわかったことから考えたこと■立場によって考えを挙)	◎教材	☆評価と○支援 (観点)
つかむ I	当時の世の中の様子に関心を持ち、調べていく意欲をもつ。	①焼け跡のまちを歩く写真から、当時の状況を読み取る。 ②日本が戦争を始めるきっかけについて話し合う。 ③中国との戦争がアジア各地に拡大していった様子を調べる。 ④⑤沖縄戦、原爆が投下された広島・長崎の人々の状況を知る。 ⑥戦争が長びく中、人々の生活が苦しくなってきたことについて話し合う。	□空襲にあり、子どもたちだけで逃げていく様子が分かる。 ☆ひどい不景気におそわれ、満州へ進出すれば生活がよくなると考えた。 ☆同じ年齢くらいの人たちが、武器をもって戦ったのは驚いた。 ■私がひめゆり学徒隊だったら、どんな気持ちで人を手当てしたのだろう。 □全国民が戦争に総動員された。 ☆食べ物もなくて、空襲があつてたいへんだったろうな。	◎焼け跡を歩く子たちの写真 ◎昭和初期の写真・VTR ◎略年表 ◎教科書、読み物資料、VTR教師による語り ◎小金井市民の戦争体験集	○まわりの様子や表情、気持ちなどに焦点をあて読み取らせる。 ☆写真から当時の状況を読み取ることができる。(技・表) ☆戦時中の人々の暮らしに関心をもつことができる。(関・意・態) ☆戦争の悲惨さと平和の意義について考えることができる。(思・判) ☆戦時中の苦しい暮らしについて理解することができる。(知・理)
つかむ II	戦後の復興の様子をつかみ、学習問題をつくる。	⑦戦後、人々が暮らしを立て直していったことについて話し合う。 学習問題	□生きていくために必死で働いて、今みたいな日本になった。 □防空教室でも、子どもたちはみんな笑顔だ。戦争が終わってほっとしたのだろう。 ☆焼け野原から今の東京になったことはすごい。	◎焼け野原の東京の写真と現在の同じ場所の写真	☆戦後の人々の暮らしの変化について関心をもつことができる。(関・意・態)
戦争中の人々の暮らしはどのようなものだったのだろう。また、戦後、日本はどのようにして平和で暮らしやすい社会を築いていったのだろう。					
調べる I	太平洋戦争の頃の人々の暮らしについて予想を立て、調べる。	⑧戦争中の人々の暮らしを予想し、戦争体験者に聞きたいことを出し合い、分類・整理する。 ⑨戦争体験者に話を聞く。 	予想をもとに、課題別グループを作った。《1》食べ物《2》学校生活《3》着る物・住まい《4》遊び・旅行・交通手段など □小金井にも3回爆弾が落ちたことが分かった。 ☆生きるために必死だったんだな。 ■戦争が終わってもたいへんだったようだ。戦後のことも聞いてみたい。	◎一小的当時の学校日誌・卒業アルバム ◎一小120周年記念誌の中の記述・作文 ◎クラスの児童の祖父母からの聞き取り。 ◎戦争体験者が持ち寄った当時の写真	☆当時の暮らしを予想し、質問の内容を考えることができる。(思・判) ☆課題別のグループで考えをまとめ、分類、整理することができる。(技・表) ○当時の暮らしを知る上で、体験者の聞き取り調査が有効であることに気付くようにする。
調べる II	戦後の日本の世の中の変化について調べる。	⑩戦後、日本はどのようにして平和で暮らしやすい社会を築いたかを予想する。 ⑪電化製品の普及やオリンピックの開催について調べ、人々の暮らしの変化について考える。 ⑫日本が、平和で豊かな暮らしを実現するためにできることを考える。	□何もない焼け跡から今の日本を築いてきたことは、すごい。 ☆日本人は働き者だな。 □サッカーのワールドカップで韓国と仲良くできた。スポーツに国境はない。 ☆韓国や朝鮮のことをもっと知りたい。	◎新しい憲法の話 ◎新幹線の開通・東京オリンピック・電化製品の普及の写真 ◎2002年日韓共催のサッカーワールドカップの写真	○日本が国際的に認められていく過程を、年表を通してつかませる。特に東京オリンピックはその代表として、注目させたい。 ☆戦後、日本が民主的な国家として出発し、国際社会の中で、重要な役割を果たしてきたことが分かる。(知・理)
まとめる	戦中・戦後を生きた人々の願いや社会の変化をまとめる。	⑬⑭これまでの学習を振り返り、各自が調べたことをまとめ、紹介し合い、お世話になった方々に伝える。	学習の感想 「戦争の話聞いて」 Y児 私は、戦争のことをおばあちゃんから詳しく聞くのは初めてだった。食事は野菜ばかりで、疎開から帰った時に焼け野原に大きな穴がたくさんあったと聞いてびっくりした。戦争はみんなを苦しめるものなんだなあということがよく分かった。戦争は関係のないたくさんの人をまきぞえにする。 人も死んでしまうし、絶対にやめたほうがいいと思った。それなのに、なぜ、今でも戦争をしている国があるのだろうか。		

(7) 考察

◎教材構成の工夫について

- ◎教材構成図を作成することで、社会的事象が精選でき、人々の暮らしを視点にして、戦時中・戦後の歴史的事象の意味を考察することができた。
- ◎身近な人々や地域の戦争体験者の聞き取り調査をすることにより、本や資料では調べられない暮らしの様子が分かり、戦争の悲惨さがより実感できた。また、立場や年齢で体験に違いがあることに気付き、多面的に考えることができた。

◎評価の工夫について

- ◎補助簿には、発言の内容、振り返りシートの記述、提出物、友達とのかかわり、反応などを記録した。学習時にメモをしたり、学習後、ワークシートの記述からポイントを記録していくことにより、児童の意欲や思考、理解の傾向などが読み取れた。Cと判断した児童には、その場や学習後に補充的な指導を行い、B段階へ到達できるよう働きかけることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 教材について

- 教材構成図をもとに教材構成の工夫をし、児童にとらえさせたい社会的事象を精選することにより、基礎・基本と学習活動との整合性を図ることができた。その結果、基礎・基本の定着を図る指導計画を作成することができ、社会的事象の意味を考える学習を展開することができた。
- 人々の生きる姿や願いの表れた教材、地域のよさや特色の分かる教材を選定し学習活動に取り入れた結果、発表やワークシート等の記述に人々の工夫や努力を共感的に理解し、実感的に社会的事象の意味を考える姿が見られるようになった。
- VTRや写真、実際の見学や探検、ゲストティーチャーとのかかわりなど、体験的な活動や多様な教材を学習過程に適切に位置付けたことにより、学習への関心を高め、導入からまとめまで児童の問題意識を持続させることができた。
- 高学年では、資料を読み取る力に大きな差が出てきている。そこで学習過程ごとに適切な教材を選択・提示し、具体から抽象へと段階的に資料の活用能力を高めるように工夫をした結果、それぞれの児童の考えを深めることができた。

(2) 評価について

- 社会的事象の意味を把握するために、思考・判断を重点化した観点別評価規準表を作成し、内容のまとまりごとに評価を実施したことにより、児童の学習状況を把握し、次の学習への指導・支援に生かすことができた。
- 評価補助簿を作成し、授業時の児童の発言や行動を記録に残すことは、個々の学習状況を分析し、適切な指導や助言をする上で有効であった。
- 振り返りシートを工夫することで、児童一人一人の思考の流れや変化を把握することができるとともに、児童自身が自分の思考の流れや変化をとらえることにも活用することができた。

2 今後の課題

(1) 教材について

- 教材構成図を作成することで社会的事象を精選し、基礎・基本と学習活動との整合性が図れ、指導に有効であったので、他の単元でも教材構成図を作成し活用していきたい。
- 学習の範囲が広がると、抽象度が高くなっていくので可能な限り社会的事象を実感できるような手だてを考えていく必要がある。具体物や体験活動を取り入れた学習を進めるために、さらに教材開発をしていく必要がある。

(2) 評価について

- 児童のつぶやきや反応など、児童の様子を即時的に評価する「補助簿」の活用については、その利便性を図るために、より一層の工夫が必要である。
- 評価の方法として、児童相互に評価し合えるように、さらに検討する必要がある。